



平和を祈って



令和3年度

親子記者事業の報告

8月に、非核宣言自治体協議会の親子記者事業に参加した親子が、長崎の被爆体験者や平和活動団体にリモートで取材をしました。感想を紹介します。

い が ら し は る き
●永山小学校5年生 五十嵐陽希さん

親子記者の活動で、被爆者である池田さんの話を聞き、戦後も今まで世界が平和だったときは無いということを伝えたいと思いました。なぜかという、今も戦争が起きている国があり、その戦争で犠牲になる人がたくさんいるからです。平和を守るために、芸術家の田川さんと深澤さんが言っていた、家族を大事にするということや、周りの友達などを大事にするということを心がけて、池田さんの言っていた差別の無い積極的平和が当たり前の世界にしたいなと思いました。

い が ら し と お る
●五十嵐 亨さん

小学1年生のときに被爆した池田道明さんは「(戦争に負けたと知り) 抑圧がなくなると思い、ほっとした。」と教えてくれました。芸術家の田川誠さんと深澤慎也さんは「戦争はつらく悲しいことだが、アートのワクワクや楽しさを通して、平和を考えるきっかけを作りたい。」と話してくれました。

御三方のお話や活動はYouTubeで見ることができます。「長崎を最後の被爆地にする」という平和への願いが、たくさんの人に共有されることを切望します。

「千羽鶴」ご協力のお礼

本誌4月号で募集した千羽鶴に、多くの方からご協力をいただきました。集まった約42万羽の千羽鶴は、長崎原爆資料館に寄贈しました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

【詳細】市民活動課 25・6012

